
かくれんぼ

古賀充広

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かくれんぼ

【Nコード】

N5951A

【作者名】

古賀充広

【あらすじ】

公園で一人かくれんぼをする男の子。その男の子がかくれんぼで探している人は・・・。

「8、9、10、もういいかい？」
返事がない。

「もういいかい？」
まだ、返事がない。

砂場の真ん中で両目を手で覆い、みんなが隠れるのを待っている男の子がいた。

「もういいかい？」
何回もそう叫んでいる。しかしどこからも返事がない。

その男の子に近づいていく女の子がいた。男の子よりちょっと年上に見える。

「さつきから叫んでるみたいだけど返事ないね。きつと、もう隠れてるんだよ。探してあげたら？」

女の子は声かけた。しかし、男の子は反応を示さない。
「もういいかい？」

また叫び続けている。
女の子は黙って男の子から離れ、公園の隅にある大きな木の陰に隠れた。そして、

「もういいよ。」

と、大きな声で叫んだ。
男の子は手をおろして辺りを見渡す。そして、もう一度、

「もういいかい？」
と問いかけた。

すると、大きな木の陰から返事があった。
「もういいよ。」

男の子は大きな木の方を向いた。女の子の被っていた麦わら帽子の一部が見えていた。

男の子は下を向いた。泣いているようだった。

そして、男の子はまた数をかぞえ始めた。

「1、2、3、・・・、10、もういいかい？」

「もういいよ。」

日が暮れ始めた。

結局、男の子は女の子を探し出すことはなかった。

何回も、「もういいかい？」「もういいよ」「のやりとりを繰り返していた。

それでも、あの子供達は楽しそうな表情だった。

男の子は今までに見せたことのない笑顔で大声で叫んでいた。

私はほっとした。

「あの男の子、やっと友達を見つけることができたのね・・・。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5951a/>

かくれんぼ

2010年12月29日02時13分発行